



新たな取り組みにチャレンジしています

フードバレーとがち



中村 良子

帯広市
中村農場

帯広市以平町の畑作農家。小麦、豆、じゃがいものほか、8年前からビーツの栽培を始めました。

ビーツの栽培面積を拡大していきます!!

■ビーツを大量生産する方法を確立します!

ビーツと共通の機械を利用して育苗・移植を行い、収穫も機械化します。長期保存の方法を確立し、安定供給を目指します。

■ビーツを通じて地域に貢献します!

生産方法を確立して増産することにより雇用を増やすとともに、豊かで健康的な食文化に寄与する取り組みにします。



いまの課題は?

- 日本ではビーツの生産、貯蔵、流通に関わる情報が少なくマニュアルもないため、農家が生産拡大に踏み出しにくく、ビーツは高くて珍しい部類の野菜になっています。
- 健康に良く、見た目にも色鮮やかなビーツの特徴を活かして普及していくには、加工、調理の方法について更なる研究とPRが必要です。

ビーツは砂糖となるビーツと同種で赤ビーツともいわれ、世界の多くの国々で健康野菜として広く利用されています。



チャレンジ実現に向けた研究内容は?

農業の規模や気候が十勝に似ているドイツ、品種改良が進んでいるオランダで、ビーツの普及について学んできました!

多種多様な種類のビーツの種。砂糖用のビーツのように、ペレットに加工されたビーツの種はありません。オランダの種苗会社では、1つの種から1.7本発芽するものが理想でした。



ビーツの貯蔵方法について、ドイツでは砂に入れて保存する、オランダではピラミッドのように積み上げて麦わらで覆うという方法が主流です。



2カ国15カ所の野菜売りの全てに、ビーツがありました。日常的に食べる野菜として浸透していることが分かります。



ビーツでできたペースト、ジュース、サラダ、ピクルス、ゆでたビーツの真空パックなど、様々な加工品が並んでいました。ドイツでは1,500ヘクタールの畑でビーツが栽培され、機械化が進んでいます。

フードバレーとがち推進協議会の支援(十勝人チャレンジ支援事業)を活用して、以下のテーマで調査研究を行いました。

【テーマ】 ビーツの普及に向けて

十勝人チャレンジ支援事業とは?

新たな取り組みにチャレンジする人を支える事業。単なる視察旅行ではなく、自身の経営課題を再認識し、その課題解決のために何が必要か調査研究を行い、実践していくものです。